

宇都宮大学

EPUU、浴びる英語がテーマ



DVDラボ



リーディングラボ

地方国立大学は、地元や近隣の高校生からは評価が高くあこがれの進学先であるが、意外と大都市圏からは受験を敬遠する傾向があるようだ。という現状に私はあえて申し上げたい。地方国立大学の教育水準は高いと。特に、国立大学は大規模私立大学よりも専任教員が多く、少人数教育が実現できている。地方国立大学はもっと人気がでていいのではないだろうか。

栃木県宇都宮市の国立大学である宇都宮大学で実施している「イープー (EPUU) 宇都宮大学基盤教育英語プログラム」は「2013年度大学英語教育学会賞 (実践賞)」を受賞したすぐれたプログラムである。原則として英語のネイティブスピーカーと、欧米の大学院でTESOL (外国語としての英語教授法) を専攻した日本人教員のみが授業を担当する。授業は当然、英語で行われる。TOEICの点数による習熟度別授業で、「浴びる英語」をテーマに、CALLラボやリーディングラボ、DVDラボ、シアターなどでの学習を授業に組み込んでいる。特に高い英語力を備えた学生や帰国生には通常と異なるオナーズプログラムを受講させるとともに、習熟度の低い学生にはリメディアル教育を充実させるなど、個々の学生のレベルに応じた英語力向上に努めている。1年次の週3回の英語学習のうち1回は映画を教材として英語の口頭表現や欧米文化を学習するのもユニークだ。

こうした質の高い英語教育が受けられる国立大学をもっと知ってもらい、ぜひめざしてほしいと思う。